

令和 7 年度 城山西小学校 学校評価書

※網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で、思いやりのある豊かな心を持ち、確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで、思いやりのある子ども（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子ども（かしこく）
- 健康で、やりぬく子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成 17 年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、学校統廃合の危機を脱することができ、伝統ある学校として存続している。また、平成 27 年度の小規模特認校 10 周年を機に、「小規模特認校 第 2 ステージ ～新たな学校の創造～」の取り組みを展開している。

今後、本校がさらに発展していくためには、縦軸（人材育成と伝統の再構築）の視座に立った協働の展開と横軸（確かな教育活動と市内への PR）の視座に立った教育活動の展開が不可欠となる。PDCA サイクルを活かしながら活動の展開と改善を重ね、立体的な発展を遂げていきたい。

前述を踏まえ、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトとした本校の特色ある教育活動を推進し、特に以下の二点に力点を置きながら、「魅力あふれる学校」を創り上げる。

- （１）「未来を創る」をキーワードに、使命感と愛情をもった教職員の教育力の向上、縦割り班活動を核とした兄弟のような児童同士のつながりの強化、学校・保護者・地域の協働による信頼関係の構築に努める。（人材育成と伝統の再構築）
 - （２）「確かな力」をキーワードに、知・徳・体のバランスのとれた力を育む。また、活動の様子や成果を学校だよりやホームページ、ポスター等で市内に広く周知していく。（確かな教育活動・特色ある教育活動と市内への PR）
- そして、107 人全員の笑顔輝く城山西小学校を目指すとともに、本校を希望して入学する児童数の維持・拡大に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため、教職員の適材適所を図り、本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また、教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに、業務の効率化を図り、労働時間の適正化に努める。（学校運営の適正化）
- （２）児童一人一人のよさを認め励まし、自己肯定感を育み、居がいのある学校・学級づくりに努める。（学級経営の充実）
- （３）道徳科授業の充実・継続に努めるとともに、地域のよさを生かした体験的な学習や読書指導、縦割り班（なかよしグループ）活動の活性化により、他人を思いやる心豊かでたくましい児童を育む。（豊かな心の育成）
- （４）○学力の基礎・基本の定着を図り、それらを活用する力を育成するとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学び自ら考える力の育成に努める。（学習指導の充実）
- （５）進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに、保健・安全指導の充実に努める。（体力向上と保健安全教育の充実）
- （６）学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら、小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。（魅力ある学校づくりの推進）

【城山地域学校園教育ビジョン】ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

4 教育課程編成の方針

（１）基本方針

県の「とちぎ教育振興ビジョン」宇都宮市の教育の指針に従い、教育課程の編成に努める。また、地域とともにある学校づくりを推進するため、地域協議会の意見を踏まえながら教育課程を編成し、開かれた育活動を推進していくとともに、児童の発達の段階に考慮し、家庭・地域・企業等と連携し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の充実に努める。

（２）留意点

・基礎的・基本的な地域及び技能を確実に習得させること、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力を

育むことのバランスを考慮して教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの充実に努める。

- ・学校マネジメントシステムを有効活用し、地域協議会委員の意見を生かした教育課程の編成に努める。
- ・学校便りの地域への回覧や、ホームページの適宜更新により、学校の教育活動に対する家庭・地域への積極的な情報提供を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

- ・全職員による指導体制を確立し、報告・連絡・相談の励行に努める。
- ・多様な専門スタッフとの連携によるチーム力の向上を図る。
- 小中一貫教育の検証・見直しを行い、義務教育9年間を見据えた教育活動に努める。
- 業務を効率化し、労働時間の適正化を図る。

（2）学習指導

- 読む力、書く力、聞く力、話す力など、「学力の基礎基本」の確実な定着を図る。
- ・一人一台端末を活用した授業や家庭学習を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図る。
- ・教材やICT等を効果的に活用しながら、「はつきり」「じっくり」「すつきり」を踏まえた授業展開を図る。
- ・児童の多様な考えを教師が適切にコーディネートしながら、探索的な学び合いの充実に努める。
- 教科等横断的な視点で教育課程を編成し、SDG's等の現代的な諸課題に対応できる力を育む。
- ・地域の人材が活躍できる場を積極的につくり、体験的な学習を意図的・計画的に位置付ける。

（3）児童生徒指導

- 日々、気持ちのよいあいさつが飛び交い、時と場に応じた言葉を交わし合う学校を目指す。
- ・「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」態度を生活に根付かせる。
- ・道徳科の授業の充実に努め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。
- ・全校児童が「まるで兄弟のように関わる」伝統を大切にする。
- 宇都宮学や地域の教育資源の活用に積極的に取り組み、郷土を誇りに思う気持ちを育てる。
- ・「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通して、児童に達成感や成就感を味わわせ、たくましさを滋養する。

（4）健康（体力・保健・食・安全）

- 各種検定カード（地域学校園共通）の活用や教科体育時におけるサーキットトレーニング等を通して、体力の向上を図る。
- 食農体験を通じた食育の推進に努める。
- ・交通安全指導や避難訓練等を通して、児童の危険予測・危機回避能力の向上に努める。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答85%以上	① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに、基本的な学習態度について共通理解を図り指導に当たる。 ② 児童が他者と協力して取り組む学びとなる授業展開を工夫する。 ③ 会話科の授業で他者とのやりとりを充実させ、よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。 ④ 学校ホームページや各種たよりを活用し、日常の学びの姿を発信する。		【達成状況】 【次年度の方針】

1－(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、思い やりの心をもっている。」 ⇒児童・保護者・地域・教 職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳の時間の指導を要とし、各教 科領域、特に児童指導との連携を とり、教職員が共通理解のもとに 足並みをそろえて児童の規範意 識を高めていく。 ② 縦割り班での活動や共遊の時間 を大切に、児童同士あるいは児 童と教師が豊かな心のふれあい ができるようにする。 ③ 会話科等の学習を通して、コミュ ニケーション力を高め、互いの気 持ちを伝えられるようにする。 ④ 盲学校との交流を継続し、心のふ れあいを通して、障がいに対する 理解が深められるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「児童は、目標 に向かってあきらめずに、粘 り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の 肯定的回答 85%以上	① 漢字や計算、運動の検定や各大会 などで児童の意欲を高め、目標と なる教育活動を設定することで、 児童が自ら目標を持って、進んで 活動できるようにする。 ② 学期ごとに、学習と生活のめあて を立てて、その達成状況を学期末 に振り返る。	【達成状況】 【次年度の方針】
1－(3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 アンケートの「児童は、健康 や安全に気を付けて生活して いる。」 ⇒児童・保護者・地域・教 職員の肯定的回答 85%以上	① 学級での指導や各種便り等を通 じて、基本的生活習慣の定着を図 る。 ② 健康の保持増進を意識した生活 を送ることができるよう、定期健 康診断の結果を生かした指導や、 バランスのとれた食事について など具体的な指導に努める。 ③ 避難訓練や交通安全教室などを 計画的に実施し、安全を意識した 生活ができるようにしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
1－(4) 将来への希 望と協働す る力を育む 教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。 【数値指標】 アンケートの「児童は、自 分のよさや成長を実感し、協 力して生活をよりよくしようと している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回 答 85%以上	① キャリアパスポートの活用など、 キャリア教育を中心に、学校の教 育活動全体で、自分の夢や目標を もち、それに向かって努力する大 切さや喜びを実感できるように する。 ② 文化人の先生や地域の方、保護者 との多様なかかわりを通して、他 者と協力・協働していくことのよ さに気付かせ、社会に参画してい こうとする心を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 日々自分たちが行っている、ごみの分別・リサイクル・節電・節水や、PTA資源回収などの活動が、身の回りだけでなく地球環境の維持につながっていることを意識させる。 ② 古賀志山清掃登山や裏山探検などを理科や社会、総合の授業と、関連させて、身近な自然を実感させ、自然の大切さを意識できるような教育活動を展開していく。 ③ 本校は土砂災害警戒区域内にあることを意識させ避難訓練などで指導を継続していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援が必要な児童の実態把握と、校内支援委員会やケース会議、情報交換会などを通じた情報の共有に努め、職員間で連携を図って適切な支援を行う。 ② 必要に応じて、SCやSSC、教育センター、病院、市役所等、各関係機関と連携し、適切な支援を行う。 ③ 家庭と密にコミュニケーションを図ることで信頼関係を築き、協力して支援・指導を行っていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 80%以上	① 児童集会等でいじめは絶対許されないことであるという指導を行う。 ② 教育相談やアンケートを実施し、いじめの起こらない環境づくりを推進する。 ③ 児童の些細な変化を見逃さないように教職員間で情報を共有し指導にあたり、いじめ防止と早期発見に努める。 ④ 学校だより等各種たより及び学級懇談会等を活用し、いじめアンケートの結果など、本校のいじめ防止の取組について情報を発信するとともに、各家庭と積極的に児童の様子などを情報交換する。 ⑤ 生活目標や学校のきまり、いじめ防止を強調した合言葉「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」などを児童へ周知徹底する。 ⑥ 日頃から日々の記録へは、授業へ出ている教職員も見取った様子（よかったこと、個々の成長、他者との関わり等）を入力する。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上	① 学級・児童に関する情報交換会を職員会議後に開き、全教職員で情報を共有し、対応について共通理解を図る。 ② 児童が活躍できる場の設定や、努力やよさを認め励ます教育を推進する。 ③ 欠席児童に対する、電話連絡や家庭訪問など欠席が長期化しないように、初期対応を徹底する。 ④ 教育相談や個人懇談で得た情報は詳しく記録に残し、児童理解のために有効に活用していく。 ⑤ 学校全体で実施している不登校を生まない取組について、学級懇談会で保護者へ周知する。	【達成状況】 【次年度の方針】
3－(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 アンケートの「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域の肯定的回答 90%以上	① 学校生活において、一人一人が生き生きと達成感を実感できるような活動の場を意図的に設け、自己肯定感の向上を図る。 ② 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。 ③ 子供たちの頑張りを認め励まし指導を継続し、学年だより、学校だより、ホームページ等で保護者に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
3－(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			

4－（１） 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学習のめあてや振り返りを大切に扱い、一人一人が分かる授業を実現する。 ② 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にした指導に努める。 ③ 全校学習として、朝の学習の時間に「漢字マスター」や「計算チャンピオン」に取り組み、学力向上を図る。 ④ 学期ごとにまとめの月間を設定し、家庭にも周知を図って、一人一人の習熟に努める。教職員間でも連携を図り研修を深め実践していく。個人としても研修を進めていく。 ⑤ 行事だけでなく、授業での様子もホームページや学年だよりなどで積極的に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
4－（２） チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進めるように努める。 ② 教職員が教育活動において役割分担などを見直し、同僚性を発揮しながら取り組めるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
4－（３） 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識する。 ② PDCAサイクルによる教育課程の振り返りや、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図る。 ③ 勤務時間を意識した働き方については、個人の意識を高めつつ教職員間でも互いに声をかけ合い、協働して校務分掌やその他の業務にあたるようにすることでさらなる改善を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒児童（5・6年）・保護者・地域・教職員の肯定的回答 80%以上	① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。 ② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。 ② 地域学校協働活動推進員を中心に学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。 ③ 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ④ 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の教育資源を活用した教育活動を行う。 ⑤ 孝子桜まつり、古賀志山清掃登山、地域合同運動会など、地域と連携して実施する。150周年事業も進めていく。 ⑥ 学校外との連携が濃い本校ではPTAや地域へ依頼する活動は今後も継続していくが、活動そのものの見直しや整理を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童や利用者が安全に利用できるよう、毎月の安全点検を確実に実施し対応が必要なところは、迅速に処理する。 ② 学校施設利用者や保護者へ、来校時の安全面での注意点やAEDの設置場所の周知、災害時の避難など危機に対応できるよう情報を提供する。 ③ ホームページや各種便りで家庭や地域に、校内の安全対策についての取組を発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 アンケートの「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 実物投影機・1人1台端末などのICT機器や、児童が活動で使う図書資料等を準備する。 ② ICT機器や図書資料を、授業等で児童が使用しやすくし、十分に活用できるよう、情報を提供したり、校内研修を行ったりする。	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合言葉のもと、児童会を中心に城山地域学校園で連携したあいさつ運動を継続する。 ② PTA生活指導部の登校指導の場では学校・地域・保護者で連携を図り、子供たちが気持ちよくあいさつができる環境を整えとともに、各学級で事前指導を徹底することであいさつの大切さを伝え、広げていく。 ③ 学級懇談会や個人懇談などで家庭内でのあいさつの様子について話題にするなど定期的に家庭でのあいさつ状況を振り返らせ、学校と家庭で足並みをそろえたあいさつの指導をしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	① 城山西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。 ② 児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通して学級の行動目標を決めて指導していく。 ③ 学級や全体集会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。 ④ 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域との連携を図り、きまりやマナーの大切さについて指導を徹底することで、児童の規範意識を高めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

本校の特色・課題等	B 3 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。 【数値指標】 アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画に基づき、計画的、系統的に指導を行っていく。 ② 英会話タイムと外国語の授業では、やり取りを重視した、楽しい授業作りを行う。 ③ 外国語活動や外国語については、中学校へのつながりを意識した研究を進めていく。 ④ 生活の場で、英語に触れられる機会を増やすために、高学年児童による英語での校内放送の充実を図る。 ⑤ 「会話がはずむ 城西キャンペーン」を行い、語彙力を高め、自分の思いを言語化できるようにし、主体的にコミュニケーションが図れるようにする。 ⑥ 市の取組でもある「書くことキャンペーン」を生かし、コミュニケーションスキルを高めるための方策を考え、実践していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。 ③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。 ④ 引き続き、地域・文化人と連携した学校教育活動を推進するために、地域学校支援ボランティア活動が充実するように計画し、150周年事業と関連付けて組織化を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B 5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を図っている。 【数値指標】 アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上	① 給食農園で地域の方との連携を深めたり、種まきから収穫まで児童が栽培に関われるように活動を充実させたりすることで、食に対する関心を高めたり、感謝の心を育成したりすることを目指す。 ② 地域の食材を積極的に利用し、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。 ③ 給食の時間に、給食農園で取れた野菜や米、地域の食材を紹介することで、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。 ④ 食育だより・保健だよりを充実させ、保護者へも啓発していく。 ⑤ 各種感染症の罹患状況を勘案しつつ、全児童での交流給食やランチルームでの給食を実施していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
--	--	--	-------------------------------

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

--